

宇陀・室生のハイキングコースを歩く

6月3日土庫病院山歩きクラブの例会で、竜鎮溪谷～室生寺～滝谷のハイキングコースを歩いた。コースは雪害、風水害で荒れており、倒木、道の崩壊などで歩きにくかったが、人は少なく、山中では誰とも出会わなかった。逆に季節の花々が溪谷沿いの道にはみ出すように咲いていて、長い歩行時間のしんどさを忘れさせてくれた。

参加者は24名、平均年齢は68.8、最高齢者は84歳のMさん。みんなよく歩きはる。今回の山行には植物の専門家・御宮知さんが参加しており、彼の手になる「記録」が楽しみ。

参加者は24名、平均年齢は68.8、最高齢者は84歳のMさん。みんなよく歩きはる。

今回の山行には植物の専門家・御宮知さんが参加しており、彼の手になる「記録」が楽しみ。



上の写真は**オオバアサガラ**（大葉麻殻）。エゴノキ科アサガラ属。写真が悪いのでわかりにくいですが、円錐状の白い花の房がたれさがっている。

鹿が食べないので、シカ被害に悩む地域ではこの樹木が注目されているという。

右の写真は**竜鎮神社**。大きく深い淵があって、どこか神秘的雰囲気。この淵も、岩盤のくぼみに落ちた岩石が、水流によって回転させられ、長い



時間をかけて底と周囲の岩盤をえぐり、削って造りだした甌穴（おうけつ）なのだろう。

左の写真は**ミズタビラコ**（水田平子・ムラサキ科キュウリグサ属）。水辺のキュウリグサ（同科・同属、別名タビラコ）の意味のネーミングらしい。写真が悪くてわかりにくいですが、花はムラサキ科ルリソウ属のヤマルリソウと色も形もよく似ているが、小さく、つる状の花序を伸ばし、その先端はくるりと巻いている。

右下は**コアジサイ**（小紫陽花・ユキノシタ科アジサイ属）。二上山では祐泉寺から岩屋峠に登る途中で見事な一株が登山者の目を楽しませてくれるが、そこ以外ではあまり見かけない。

だが、この溪谷ではたくさんあり、いずれも大きな株である。

このアジサイは直径4ミリ程の小さい花が多数密についているが、他のアジサイに見られる装飾花（ガク片などが変化したもので、目立つ）は無い。





竜鎮溪谷沿いの道で、みんなの目を引いたのが**ジャケツイバラ**（蛇穴茨・マメ科ジャケツイバラ属）。鮮黄色の花をたくさんつけた20～30cmもの総状花序を上に向かってたて、他の灌木類に乗っかって、華々しく咲き誇っている。この情景は10年くらい前に兵庫県の雪彦（せっぴこ）山の山腹で見たとあるが、奈良県の山で見たのは初めて。

皆をギョッとさせたのはつる状に伸びる茎の刺、固そうでしかも鋭く鷲鼻形に曲がっている。触れただけでケガをしそうで、華麗な花房とのアンバランスにやや戸惑い気味。このつるが絡み合う姿を蛇に見立てての命名という。

室生の里近く、林道わきに**オカタツナミソウ**（丘立浪草・シソ科タツナミソウ属）が群れを作りつつ、点々と咲



↑**ジャケツイバラ** いていた。二上山のタツナミソウは5月下旬、雄岳東南の稜線に幾株かが花を見せたが、6月初旬には花期を終えたようだ。祐泉寺から馬の背への道の鉄階段近くの群落は今年花を見せていない。

タツナミソウの花が同一方向を向くのに対し、オカタツナミソウは方向がそろっているとは限らない。

オカタツナミソウ→



ガクウツギ（額空木・ユキノシタ科アジサイ属）は林縁でも崖地でも勢いよく咲いていた。写真の大きく白い花弁状のものは花ではなく額片で、いわゆる装飾花、小さい黄緑色のものが雄しべ、雌しべをもった両性花なのだ。装飾花は虫などを呼び寄せるために大きく、白く輝いているのだと考えられている。

ヤマトテンナンショウ（大和天南星・サトイモ科テンナンショウ属）。テンナンショウ、マムシグサの仲間もよく似た種がたくさんあり、素人の私たちには区別がつかないが、今回の山行には御宮知さんが参加し



↑**ガクウツギ** ており、解らないものは彼に教えてもらった。

ネットで調べるとこの宇陀市周辺はこの植物の特産地とある。他府県では「絶滅危惧種」に指定したところもあり、我々は貴重な種を見たのだろうか。

二上山でササユリが見ごろ

イチヤクソウ→が咲き、テイカカズラ↓も残っている。

